

北海道のログハウスに 新たな一歩

北海道の杉でつくる

ログハウス Vol.1



2011年5月

四月の快晴の日、北海道では初めてとなる「道南杉のマシンカットログハウス」の生産工場をお客様と訪ねてきました。

これまでのマシンカットログハウスは、フィンランドから輸入するパイン材がほとんどです。

お客様の「できるなら、地元の木材でログハウスを建てたい。」というお気持ちと、高度な技術を持つ㈱ハルキさんのご協力があつて、「北海道産道南杉のマシンカットログハウス」が実現することになりました。

精巧な加工技術により
生み出されるログ材



道南杉の原木視察

この二、三年は、「北海道の木材でログハウスを建てることはできないのでしょうか。」というお問い合わせは増えていました。お客様の要望に応えたいという想いがありました。

ログハウス21でも丸太をそのまま横に積むハンドカットログハウスでは、カラマツ・道南杉で実績がありますが、マシンカットは、技術と設備を持つところがありませんでした。フィンランドのマシンカットは実績もあり技術も成熟しています。輸送による負荷を考えると、いつまでも海外製品に頼るのではなく、森林資源の豊かな

㈱ハルキの鈴木さんと偶然、「木育」でお会いしたときも、「道南杉のログハウスを実現させたいですね。」と語り合っていました。

だけど、ミニログの厚みは105mm。暖房があれば寒くはないですが、もっと厚みがあるほうが、効率よく暖まります。実際に木の蓄熱性能で、一度暖まったログハウスは暖かく、「木は偉い！」と本当に感じます。

これからの住宅としてのマシンカットを考えたら、断熱性能とエネルギー消費量削減の面から、105mmでは住宅として実現しにくいと考えていたので、そのことを正直にハルキさんに伝えました。そうしたら、刃物を変えると厚みは136mmはできます。」とお返事を頂いて、実現に近づくことができました。

お客様との出会い

お客様のTさんご夫婦とは二〇〇九年の三月に、モデル住宅の見学会でお会いしました。お子様たちが独立して、これから夫婦で暮らす家には、ログハウスに：「ずっとその夢をお持ちだったと伺っています。最初から建築は二〇〇一年の春に着工との意向でした。二〇〇九年の十二月には、プランも決定し、丸一年以上の着工に待って、いよいよ着工の時期が来ました。私たちの、道南杉でいきましようか。」の提案に、「ログハウスはパインしかできないと思っていただけで、できるのであれば北海道の木でお願いします。」北海道の工場で、北海道の人が携った北海道産のログハウスが実現へと大きく動き始めました。

北海道の木でログハウスをつくることは使命だとも感じていました。樹種による性質の違いがあるから、何でもログハウスに合うわけではありません。

ハルキさんとのご縁

㈱ハルキさんの外装無垢材「ハル壁」で取引があつて、その縁からハルキさんが試作している、マシンカットログハウスの技術指導講師として呼んで頂きました。施工の注意点やセトリングのことなどをお伝えしながら、ミニログハウスを完成させました。

工場見学では春木社長の道南杉への熱を強く感じる事ができましたし、工場の方からログの制作工程や商品について丁寧な説明を受けて、Tさんますます楽しみにしています。ログは5月上旬に現場に入ります。



道南杉の卵を受け取るお客様



春木社長とご主人



代表松延と奥様



Log House 21

ログ材をバックに㈱ハルキのみなさんとTさんご夫婦と松延